

第3回TIAナノグリーン・サマースクール開催報告

環境エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが、8月25日から8月27日の日程で開催されました。実施・運営を行った木島正志教授(筑波大学数理物質系)にお話を伺いました。

ナノグリーン・サマースクールも3回目の開催となりました。昨年までは4日間の日程でしたが、より参加しやすい1日減らした密度の高いプログラムを組みました。対象者はナノグリーンに興味を持つ大学院生及び社会人です。25名の申し込み者(他、若干名の聴講)のうち筑波大以外からの参加者は、ほぼ半数の12名(北海道大学、広島大学、岡山大学、信州大学、日本大学)に及びました。今後つくば地区以外の学生への旅費等をサポートすることで、幅広い研究交流場を確保していきたいと考えます。なお今回は社会人の参加はありませんでした。

本サマースクールのプログラムの根幹は、ナノグリーンに関する基礎から先端研究までを含む講義です。スクール生は3日間にわたり、今回のテーマであった太陽電池、触媒、光電変換素子、燃料電池、電子顕微鏡についての講義を受講しました。



講義風景

もうひとつの重要なプログラムはTIAナノエレクトロニクス・サマースクールとの合同ポスターセッションです。初日の午後、全員によるショートプレゼンテーションの後、開始されます。このポスターセッションでは自分の研究発表に加え、「他の発表者の研究を理解し、自由な発想で融合テーマを考え、レポートしてまとめる」という趣旨の課題が出されていたこともあり、発表者は学生相互、企業・教員アドバイザーと活発で深い討論を行いました。

ました。続き、合同交流(懇親)会が夕方に行われましたが、このポスターセッション後の交流会は極めて重要な意味を持っています。セッション時に交わした学術的な討論に加え、自己紹介やアドバイザーからの提言など、リラックスした中でのスクール生の相互理解・交流から新展開が期待されるからです。



合同ポスターセッション

修了式:奨励賞受賞者

3日目の最終日の講義の後、午後には修了式が行われ、スクール生全員に修了証が授与されました。今回も、ポスター発表ならびレポートなど優秀と認められた学生を表彰(奨励賞)しました。修了式の後、物質・材料研究機構(NIMS)の施設見学が行われましたが、都合上、参加できない学生もいたようでしたので、2日目の午後に企画するなど、今後、より充実したサマースクールになるよう検討したいと考えます。



ナノエレクトロニクス・ナノグリーン合同交流会

開催日	2015年8月25日(火)~8月27日(木)
会場	筑波大学総合研究棟B
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科、筑波大学学際物質科学研究センター (TMS)
共催	物質・材料研究機構 (NIMS)
構成	講義7コマ+ポスターセッション(レポート提出)+施設(NIMS)見学
参加者数	25名(大学院生23、学部生2名) ※内単位取得希望者:14名
修了証	25名(出席率8割以上)に授与
表彰者	ポスター奨励賞5名